

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「言葉について考えよう」 教材名「日本語の特徴」

2 単元の目標

助詞や語順、語句の係り方による伝わり方の違いを理解できる。実際の文の比較を基に、日本語の特徴が読み手に分かるように説明の書き表し方を工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①助詞や語順、語句の係り方による伝わり方の違いを理解している。 〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(1)カ	①「書くこと」において、実際の文の比較を基に、日本語の特徴が読み手に分かるように説明の書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

助詞や語順を変えた文を読み比べ、誰が何をするか、どの語がどこにかかるかが伝わり方に関わることを確かめる。日本語を他言語より優れていると評さず、実際の文の働きとして特徴を説明する。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(1)カを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師が作った短文で主語・述語・修飾語を確かめ、語句カードを並べ替える。変えた箇所だけを印で示す。外国語との比較を行う場合は学級で確かめられる表現の範囲にとどめる。おおむね満足できる状況は、実際の文の比較を基に、日本語の特徴が読み手に分かるように説明の書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○助詞や語順を変えた教師作成の短文を読み比べ、意味や強調の違いを探す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○違いが生まれた理由を語句の関係から説明し、相手に分かる説明文を書く。	思①（発言・学習記録）
第3次	3	○説明文を読み合い、意味が変わる場合と変わりにくい場合を分けてまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

実際の文の比較を基に、日本語の特徴が読み手に分かるように説明の書き表し方を工夫できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「語順や助詞を替えると、同じことが伝わりますか。意味が変わる所と、強く伝わる所を区別して説明できますか」 【めあて】助詞や語順を変えた文を読み比べ、誰が何をするか、どの語がどこにかかるかが伝わり方に関わることを確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・語順が違って同じ出来事を表す場合がある。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「語順や助詞を替えると、同じことが伝わりますか。意味が変わる所と、強く伝わる所を区別して説明できますか」 語順や助詞を替えた文を比較し、意味が変わる点と強調される点を分けて記録する。比較した文を例として日本語の特徴を説明する文章を書く。読み手に例と説明の対応を確かめてもらい、説明を直す。 〈予想される児童の反応〉 ・語順が違って同じ出来事を表す場合がある。 ・助詞が変わると、する人とされる人が変わる。 ・修飾する言葉を離すと別の意味にも読める。	教師が作った短文で主語・述語・修飾語を確認、語句カードを並べ替える。変えた箇所だけを印で示す。外国語との比較を行う場合は学級で確かめられる表現の範囲にとどめる。 想定する難しさ：語順を自由に変えても意味はいつも同じだと言い切る。助詞の違いを音の違いとしてしか捉えない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 実際の文の比較を基に、日本語の特徴が読み手に分かるように説明の書き表し方を工夫している。(比較に用いた文・説明文と修正箇所)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・修飾する言葉を離すと別の意味にも読める。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「語順や助詞を替えると、同じことが伝わりますか。意味が変わる所と、強く伝わる所を区別して説明できますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

